

2019 年度学修行動調査結果について（ご報告）

IR 室

2019（令和1）年12月12日から2020（令和2）年2月14日にわたり実施した2019年度「学修行動調査」（アンケート）について、集計結果をまとめましたので、ここにご報告します。

まず、「学修行動調査」は、①学生自身による学修行動・成果の振り返り、②寄せられた評価や意見をもとに、授業担当者が次年度以降の授業内容や授業方法の改善に取り組むこと、③授業環境の組織的な改善に結びつけること等を目的として毎年実施しております。

今年度の回答率は31%であり、前年度の36%に比べ下回っており、目標としておりました50%には届きませんでした。前年度に比べて、今年度の回答率が伸び悩んだ理由の一つには、その他の調査（アンケート）と調査時期や調査内容が重複するなど、学生のアンケート疲れが挙げられます。したがって、次年度は回答率を上げるために、調査の開始時期や実施方法等に加え調査内容（設問項目や数）等を精査し、効率的な調査（アンケート）にしたいと考えております。

今回、ご協力いただいた調査結果より主な5項目を抜粋し以下の通りまとめました。調査結果は関係する委員会をはじめ所管部局にフィードバックし、学生の実状把握に役立てるとともに、多様なニーズに応えられるよう学修環境や学生生活環境の改善に努めたいと思っております。

最後に、本調査にご協力いただきました学生みなさんに厚くお礼申し上げます。

【調査結果】

1. 1週間の通学日数

本学は、原則として月曜日から金曜日までの週5日制を採用しており、調査結果から各学部学科ともに通学日数は4日以上であり、学生が真面目に通学していることが判明しました。今後も、引き続き週内で偏りのない時間割作成を心掛けるとともに、学生が計画的に学修できる環境整備の必要性を改めて認識する結果となりました。

2. 1週間を通して大学で過ごす時間

大学で過ごす時間はこれまでと比べ横ばい状態となりました。しかし細かく見ますと、短大の幼児教育・保育科では、若干の減少傾向が見られました。授業時間以外の大学で過ごす時間を充実したものにするには、これからも、学生満足度調査等から得られる学生のニーズを探りながら、大学の図書館やラーニングコモンズなど学修環境の整備拡充に努めることの重要性を認識する結果となりました。

3. 授業への出席率

授業への出席率は、大学が9割以上という結果になりましたが、短大は8割台で、大学と比べ若干低いことが判明しました。この理由について、現時点では定かではありませんが、今後明らかにしたいと考えます。

4. 授業の予習や課題に取り組む時間

大学は「3～5時間」、短大は「1～2時間」の項目を選択した学生が多く、短大よりも大学の方が学修に費やす時間を比較的多く割いていることが分かりました。大学では、学修効果を上げるために、これまで以上の学習時間の確保が望まれ、学習習慣を身に付ける指導をさらに強化する必要性のある

ことが分かりました。

5. 授業以外での自主的な勉強

大学で自主的に勉強に取り組む時間は横ばい傾向という結果になりましたが、短大は、前年度調査と同様に低い結果となりました。大学では、免許や資格取得等に向けて自主的に学習に取り組めるよう環境の一層の整備が引き続き必要であることが分かりました。一方、短大は学生の学習意欲を喚起させる環境の整備が強く求められることが分かりました。

以上